

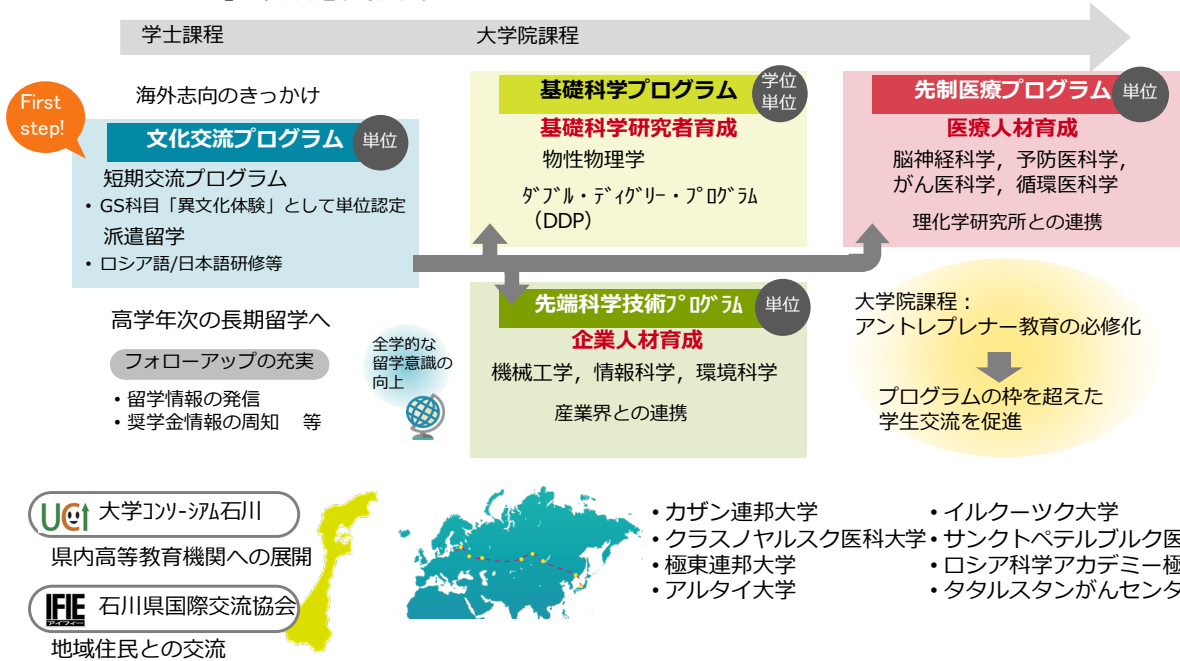
大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 金沢大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプA))

日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム

【事業の概要】

金沢大学とロシアの研究者交流を学生交流へと展開し、本学の人材像に合う学生を育てるだけではなく、将来の日露関係を担う人材育成に貢献する。そのために、ロシアの8つの協定大学等と体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムを構築・実施し、学生交流の規模を抜本的に拡大するとともに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図る。本事業を通じて、東洋と西洋を結ぶ「21世紀の知(価値)のロシアン・シルクロード」の実現を目指す。



【交流プログラムの概要】

- ①文化交流プログラム(体験交流・単位取得型): 日露両国の特徴的な自然環境や長い年月をかけて育まれてきた文化・芸術を学び、将来的なロシア・日本への長期留学への呼び水とする。学士課程学生を主対象としたプログラムで、語学研修を目的とする派遣留学も含む。
- ②基礎科学プログラム(学位・単位取得型): これまでの低温物理学分野での学生の双方向交流を一層促すため、博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施。
- ③先端科学技術プログラム(企業人材育成・単位取得型): 実学的分野である機械工学と情報科学、環境科学分野で、主に博士前期課程学生を対象に、今後の地域間企業連携を見据えた、企業でのインターンシップ等を組み込む。
- ④先制医療プログラム(研究交流・単位取得型): 脳神経科学分野に加え、予防医科学、がん医科学、循環医科学分野における博士課程の交流プログラムを実施。理化学研究所、カザン連邦大学と連携して、将来的には日露医学研究教育センターの開設を目指す。

【本事業で養成する人材像】

本事業で養成する人材は、日本とロシアの互いの「特殊性」と「普遍性」から、各人の専門知識・技術を駆使して新時代の価値を創造し、それを礎に両国の未来を共に創り上げていくことのできるリーダーである。この人材は、専門知識に加え「異文化受容性」「現状認識力」「俯瞰的思考力」「創造(想像)力」「実践力」の5つの力を備えている。

【本事業の特徴】

「CoLAB(Collaboration LABoratory)の設置」「アントレプレナー教育の導入」「企業との連携によるプログラムの充実」「派遣・受入学生による学内・市民公開講座の開催」「自治体等との連携」といった特徴を持つ体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムの実施を通じて、学生交流の規模を抜本的に拡大する。さらに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、金沢大学が目指す人材像に加え、将来の日露関係を担う人材育成に貢献するという点にある。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	20	35	51	62	100
学生の受入	5	17	40	50	70

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈カザン連邦大学での学生交流〉

学生交流プログラムを実施するためのプログラム運営委員会、基礎科学・先端科学プログラム実施小委員会、先制医療プログラム実施小委員会、文化交流プログラム実施小委員会、質保証小委員会等を設置した。文化交流プログラムの派遣と受入を実施するとともに、先端科学技術プログラム(環境科学分野)の派遣を実施した。基礎科学プログラム、先端科学技術プログラム(機械工学、情報科学)、先制医療プログラムについては、平成30年度からの実施に向け準備を進めた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生3名を1年間の交換留学生としてカザン連邦大学に派遣。短期派遣の文化交流プログラム等で35名を派遣。

○ 外国人学生の受入

文化交流プログラムで6名を受入れ。(カザン連邦大学2名、国立イルクーツク大学2名、国立クラスノヤルスク医科大学2名)

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	20	38
学生の受入	5	6

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ キックオフシンポジウム及び外部評価委員会の開催

海外連携機関8機関から代表団(教職員及び学生)が来日。国内外から約120名以上が参加し、各界からの意見を頂いた。

○ ダブル・ディグリー・プログラム(修士)実施に向けた調整

2018年10月開始に向け、カザン連邦大学とカリキュラム、学位授与条件、留学時期、単位認定方法などについて協議。

○ ルーブリックの作成

本事業で養成する人材像が備えるべき5つの能力(異文化受容性、現状認識力、俯瞰的思考力、創造(想像)力、実践力)についてのルーブリックを作成した。日露で共有し、各プログラムにおける成績評価手法を確立する。

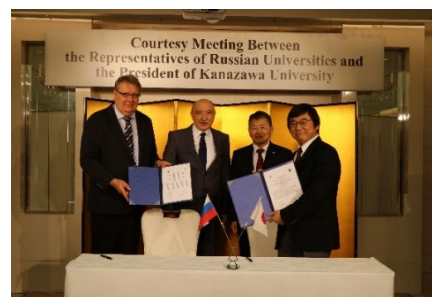


〈キックオフシンポジウム〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ カザン連邦大学内、金沢大学事務所設置に向けた取り組み

金沢大学カザン連邦大学事務所の整備を進めた。また、学生交流を円滑に実施するため、本学の短期留学プログラムを修了し、カザン連邦大学の職員となった者に本学のカザン連邦大学常駐職員としての役割を果たしてもらうよう調整した。



〈カザン連邦とのDDPに関する合意書の締結〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ ホームページでの広報

本プログラム専用Webサイトを立ち上げ、プログラム概要や連携機関、留学情報等を掲載。また、プログラムに参加した学生が留学先から写真や記事を自由に投稿できるActivity Reportページを設けた。すでに数十件の投稿があり、日露学生の声が集まるWebサイトになることが期待される。

○ 留学成果報告会を開催

平成29年度の学生派遣プログラムの留学成果報告会を開催した。成果報告をした学生らにとって、自らの経験を振り返る機会となり、また報告を聞いた学生からはロシアに関する質問が飛び交い、ロシアへの興味を持つきっかけとなった。



〈文化交流プログラム(受入れ)の修了式〉

■ グッドプラクティス等

○ 日本語履修大学生交流プログラムの開催が決定

「日本語履修大学生交流プログラム」(日露青年交流センター・金沢大学共催)を平成30年11月に金沢大学で開催することが決定。

2. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈交流プログラムで神輿を担ぐロシア人学生〉

平成30年度から交流プログラムを本格的に実施した結果、学生の派遣及び学生の受入ともに計画当初の目標数を大幅に上回る実績を得るとともに、大学院生や研究者の相互派遣に繋がるジョイントシンポジウムや海外連携機関からエキスパートを招聘した特別講義を開催するなど、双方向の交流を推進した。

一方、本学からの派遣学生の選択肢を広げるとともに、ロシアからの受入学生の更なる呼び込みを図るなど、本事業の一層の充実に資するため、新たにサンクトペテルブルク国立大学、モスクワ国立大学の2校を海外連携機関として追加した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

文化交流プログラムでは東西2つのコースを実施し、計51名の日本人学生を派遣した。基礎科学・先端科学技術プログラムでは、10名の大学院生を派遣した。先制医療プログラムでは、クラスノヤルスク医科大学との合同シンポジウムで発表する4名の博士課程の学生を派遣した。

○ 外国人学生の受入

文化交流プログラムでは、14名の学生を受け入れた。基礎科学・先端科学技術プログラムでは、計12名を受け入れた。先制医療プログラムでは、10名の学生を受け入れた。また、カザン連邦大学とのダブル・ディグリー・プログラムでは、第1期生となるロシア人学生1名が入学した(本学での修学は平成31年4月から開始)。

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	35	65
学生の受入	17	37

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 外部評価委員会の開催

平成31年3月に外部評価委員会を開催し、本事業全体の進捗状況及び各プログラムの実施状況の報告に加え、本学のプログラム参加学生4名へのインタビューを実施した。

○ ダブル・ディグリー・プログラム(修士)の開始

平成30年10月に本学数物科学専攻とカザン連邦大学物理学研究所とのダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書の締結により、学位取得型交流プログラムを開始することで、長期派遣・受入の交流基盤も整った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ カザン連邦大学との連携強化

海外連携機関の拠点校として位置付けているカザン連邦大学との連携強化を図るため、平成30年9月にカザン連邦大学に「金沢大学カザンオフィス」を設置、10月に学生交流促進のための覚書を締結、平成31年2月には本学に「カザン連邦大学金沢オフィス」を設置する等、双方向の交流のための基盤を整備した。

○ 白山白峰に本学国際機構SDGs研究教育センター等を設置

平成31年2月、本学のSDGs、ジオパーク、ユネスコエコパーク(生物圏保護区)に関する教育研究活動を推進するため、白山市およびNPO白山しらみね自然学校の支援を得て、新たな教育研究拠点として「金沢大学国際機構SDGsジオ・エコパーク研究センター」及び「金沢大学白山白峰セミナーハウス」を開設した。これらの施設は、今後、文化交流プログラムにおけるロシア人学生の受入のための拠点として活用する予定である。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ タタルスタン共和国大統領来学

タタルスタン共和国のミニハノフ大統領及びカザン連邦大学長ほか34名が、本学を視察した。同大統領は本事業の採択と本学とKFUとの25年以上の連携を受け、石川県との交流に興味を示したとされ、今回の来学は一年越しの調整を経て実現したものである。帰国後、同大統領はカザン連邦大学への石川県との学生交流推進に向けての支援策を講じており、今後の両地域間での交流への発展が期待される。



〈タタルスタン共和国大統領来学〉

■ グッドプラクティス等

○ ルーブリック(特別に開発した評価方法)による評価の実施

交流プログラムに参加した派遣学生・受入学生を対象に、ルーブリックによる評価を実施し、より明確な学習達成度の可視化を行った。その結果、日露双方の学生とともに、本事業で育成する人材が備えるべき5つの能力に向上が見られ、学生教育の観点で大きな成果が確認された。

3. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈地方創生SDGsアイデアソンin珠洲〉

平成30年度から本格的に稼働させた交流プログラムをさらに加速させた結果、派遣及び受入ともに計画当初の目標数を大幅に上回る実績を達成し、特に派遣については一年前倒して目標を達成した。また令和元年度は、分野ごとの複数のジョイントシンポジウムや、派遣・受入時の企業インターンシップ実現、アントレプレナー合宿「地方創生SDGsアイデアソンin珠洲」開催、石川県白山市白峰地区および富山県南砺市五箇山地区での地域交流ボランティア活動等、個別のプログラム細部まで精度を上げることができた。一方、新たに設立された「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」ならびに覚書調印式での記念シンポジウム「SDGs達成に向けた日露大学の協力」では、本事業終了後をも見据えた形で大学間交流・研究交流の重要性を再確認した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

文化交流プログラムでは「三都市コース」と「モスクワコース」で計50名を派遣した。基礎科学プログラム及び先端科学技術プログラムでは26名を派遣し、交流成果を報告会で発表した。先制医療プログラムではサントペテルブルク医科大学でのシンポジウムに大学院生4名を派遣した。

○ 外国人学生の受入

文化交流プログラムで30名を受け入れた。また基礎科学プログラム及び先端科学技術プログラムでは受入連携校を4大学等から7大学等に拡大して21名を受け入れた。先制医療プログラムでは1週間ごとのラボローテーションに6名のロシア人学生が参加した。また短期プログラム(基礎科学プログラム、先制医療プログラム)を足がかりとして長期型の交流プログラム(国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム)に発展した修了者の例も見られ、同学生は2019年10月より本学に在学している。

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	62	80
学生の受入	44	59

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 外部評価委員会の開催

平成31年3月に続き、令和2年3月にも外部評価委員会(新型コロナウイルス対応のため書面評価)を開催し、「事業の進捗状況」、「目標の達成状況」、「取組の改善・充実」の3つの観点から審査および助言を受けた。

○ ダブル・ディグリー・プログラム(修士)の運用

平成30年10月に締結されたカザン連邦大学(KFU)物理学研究所とのDDPの運用を本格的に開始した。平成31年4月入学の第1期生に続き、令和元年8月にはKFU学生を対象としたDDP入試を実施し、2名が合格している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 同窓会組織の設立

事業成果である人的ネットワークを維持・活用し、プログラムを発展させることを目的に、カザン連邦大学、JETROモスクワ事務所等を訪問し、令和元年3月に金沢大学ロシア同窓会が設立された。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 「石川～ロシア大学交流コンソーシアム設立に関する覚書調印式および記念シンポジウム」の開催

本学が「大学コンソーシアム石川」に加盟する13大学の幹事校として、またカザン連邦大学がロシア8大学の幹事校として、両者が覚書を締結することで合意し、令和元年7月に「石川～ロシア大学交流コンソーシアム設立に関する覚書調印式および記念シンポジウム」を開催した(国内外から約100名が参加)。これにより日露大学間交流の基盤を形成することができた。



〈コンソーシアム設立に関する覚書調印式〉

■ グッドプラクティス等

○ 日露学生のペア派遣がインターンシップ先拡大に奏功

これまでのインターンシップは1企業に受入学生1名を派遣する形であったが、本学学生とペアを組んでの派遣を強調したことで企業の理解を得られやすくなり、受入先の大幅拡充に成功した。インターンシップは本学学生にとってもロシア人学生との国際コミュニケーションと企業現場でのコミュニケーションを経験することのできる貴重な機会であり、大きな交流効果が期待できる。ロシア派遣時にも現地学生とペアを組み合わせることで、協力企業開拓はもとより、参加学生の安全確保面の有用性も考えられる。

4. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況

コロナ禍で実渡航を制限された中でも、4つのプログラムをオンラインに移し替えて実施し、派遣は目標達成、受入についてもおおむね目標を達成することができた。特に9月に実施した合同シンポジウムでは、令和2年3月に設立したロシア同窓会のキックオフシンポジウムに続けて、文化交流、基礎科学・先端科学技術、先制医療それぞれのプログラムが分野ごとのセッションで交流を行った。また化学分野ではカザン連邦大学、サンクトペテルブルグ国立大学、イルクーツク国立大学と、それぞれオンラインのジョイントシンポジウムを実施した。



〈先端科学技術プログラムのオンライン交流の様子〉

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

文化交流プログラムでは7月・8月・11月・1月の4回にわたって日本側学生向けプログラムをオンラインで実施し、計50名が参加した。基礎科学プログラム及び先端科学技術プログラムではオンラインゼミ、アントレプレナーシップ講義に32名が参加。先制医療プログラムではオンライン・ジョイントシンポジウムで大学院生4名が参加し単位認定された。

○ 外国人学生の受入

文化交流プログラムで42名を受入れ、基礎科学プログラム及び先端科学技術プログラムでは12名を受入れた。先制医療プログラムは、臨床分野という特徴や時差の問題からリアルタイム交流を実施することができず、オンデマンド教材視聴とレポート提出を組合わせた代替プログラムを実施した。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	76	86
学生の受入	57	54

(参考：上記に加えて、日露あわせて72名がオンラインでの交流を経験した)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 外部評価委員会の開催

平成31年度に引き続き、令和2年度も年度末に外部評価委員会を実施し、「事業の進捗状況」、「目標の達成状況」、「取組の改善・充実」の3つの観点から評価および助言を受けた。

○ ダブル・ディグリー・プログラム(修士)

平成30年10月に締結されたカザン連邦大学(KFU)物理学研究所とのDDPIに、令和2年度は3名が合格した。またこの枠組を数学分野にも拡張することが決定された。



〈シンポジウムで発表する来日中のロシア人学生〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ オンライン語学研修の実施

文化交流プログラムの枠組でロシア人学生向け日本語講義および、日本人学生用英語講座を実施した。

○ 同窓会事務所の整備

金沢大学ロシア同窓会の設立に伴い、金沢大学内に同窓会事務室を整備し、8月にオンライン開所式を実施した。



〈文化交流プログラムのオンライン交流の様子〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 日露医学研究教育センターの整備

これまでの取組み成果をもとに、日露医学研究教育センターの金沢大学オフィスを設立した。今後、カザン、サンクトペテルブルグ、モスクワにもこの拠点を拡大することが計画されている。

○ CIS諸国、モンゴル、東欧、バルト三国への交流展開

先制医療プログラムではモンゴル、ポーランド、基礎科学・先端科学技術プログラムではエストニア、文化交流プログラムではカザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタン、ノルウェーといったロシア語文化圏やその周辺諸国との交流が拡大しており、令和2年度にはアフターコロナを見据えた複数のオンラインシンポジウム、講座、ミーティングを実施し、国際交流協定も整備された。

■ グッドプラクティス等

○ アントレプレナーシップ講義をきっかけにスタートアップでのインターシップが実現

先端科学技術プログラムで実施したアントレプレナーシップ講義では、日露に関係の深いスタートアップ企業を開拓し、講義とオフィスアワーの提供を募った。この講義をきっかけに、2社からオンラインインターンシップの提案があり、金沢大学生3名がインターンシップに参加した。

5. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈 イベントのポスター 〉

4つの多層的な単位・学位取得型交流プログラムを実施し、オンラインのプログラムであっても地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図り、アフターコロナを見据えた取組を行った。受入は目標数を超えて達成し、派遣は目標数に届かなかったものの交流内容の質を十分に維持できた。

特に、秋には「ロシアウィーク」と題し、これまでの交流の成果とも言える関係イベントを集中的に実施した。うち、文化交流プログラムでは、一般公開イベントとしてYouTubeでの視聴を可能にしたほか、サテライト会場を設ける等、地域の方にも広く議論に参加いただいた。基礎科学・先端科学技術、先制医療の各プログラムによるシンポジウムは関係者限定イベントとして実施し、分野別セッションや抄録集の作成等、充実した研究交流を果たした。同時に、第1回同窓会総会、金沢大学イルクーツク・リエゾンオフィス開所式を開催し、交流のさらなる活発化に繋げた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○日本人学生の派遣

文化交流プログラムでは「ロシアの文化生物多様性をユネスコエコパークから学ぶ」に39名を派遣した。基礎科学・先端科学技術プログラムでは26名、先制医療プログラムでは目標を上回る6名を派遣した。

○外国人学生の受入

文化交流プログラムでは2コース合計38名を受け入れた。基礎科学・先端科学技術プログラムでは、オンラインのジョイントシンポジウム、学生交流、アントレプレナーシップ講義に合計73名が参加した。先制医療プログラムでは10名を受け入れるとともに、次年度から博士課程に入学する3名の長期受入も決まった。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	117	71
学生の受入	79	124

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ダブル・ディグリー・プログラム(修士)実績

平成30年度に締結したカザン連邦大学(KFU)物理学研究所とのDDPを、数学分野(数学力学研究所)に拡張した協定を令和3年6月に締結した。8月には、KFU学生のDDP入試を実施し、数物科学物理コースに3名が合格・入学した。また、令和4年3月に1名が自然科学研究科数物科学専攻を修了した。

○外部評価委員会の開催

令和3年度についても、年度末に外部評価委員会を開催し、「事業の進捗状況」「目標の達成状況」「取組の改善・充実」の3つの観点から評価及び助言を受けた。



TAYURSKII Dmitry 会長による
開会挨拶



SERYKH Tatyana さんによる
学生アンバサダー所信表明

〈 同窓会総会の様子 〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○同窓会活動

令和2年度に設立した金沢大学ロシア同窓会について、9月に第1回同窓会総会をオンラインで開催した。11月にはロシア同窓会分科会を開催した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○金沢大学イルクーツク・リエゾンオフィスの開所

ウラジオストク事務所、カザン事務所に続くロシア3つめの本学海外リエゾンオフィスとして、イルクーツク国立大学内に「金沢大学イルクーツク・リエゾンオフィス」を10月に開所し、協定書のオンライン調印式を実施した。

○日露医学研究教育センターの整備

今後のさらなる学生交流・共同研究推進のためのプラットフォームとして、日露医学研究教育センターを日本側に引き続き、ロシア側でも整備した。



〈 調印式の様子 〉

■ グッドプラクティス等

○交流基盤に基づく地域大学へのプログラム拡大

令和元年に設立した「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」に基づき、文化交流、基礎科学・先端科学技術の各プログラムにおいて大学コンソーシアムいしかわ加盟大学に学生の参加を募ったところ、3大学から8名が新たに本プログラムに参加した。